

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「自ら学び、思いやりのある、心身ともに逞しい生徒の育成」 浜玉中三訓「あいさつ 時間 掃除」時を守り 礼を尽くし 場を清める	① 基本的行動様式の確立と、共に支え合う仲間づくり。 ② 授業に真剣に取り組み、家庭学習習慣を身につける。

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 主体性を持って、学びあい、確かな学力を身につける生徒の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・学びあいの活用による確かな学力の向上	・T.T、「学び合い」などの授業の工夫・改善を図り、生徒の基礎学力の向上の徹底を図る。 ・学習規律の確立を図り、授業を大切にすることを徹底する。 ・生徒同士で互いの考えを深めて高め合える授業を行い、昨年度より授業がわかると思う。	・各授業で、生徒一人一人が考える時間や発表・検討し合える時間を設定する。また、「学び合い」を踏まえた研究授業を全職員が年間一度は実施する。 ・4人組での少人数活動により発言しやすい環境を作り、生徒が安心して学べる場を作る。	B	・4月と12月の佐賀県学習状況調査の結果(対県比)によると、中1国語は、0.79→0.87、数学0.79→0.90、中2国語0.75→0.84、数学0.54→0.64となり、中2国語以外は下がったという結果になった。また、学校評価アンケートでは授業を真剣に受けている、だいたい受けていると答えた生徒が97.05%であり、授業の規律を守り、授業を大切にしているという意識を持っていると考えられる。 ・学びあいの学習が自分自身の学習に役に立っていると考えている生徒の割合は、83.5%、T.T授業等で授業がわかりやすくなったと感じている生徒の割合は、81.4%であり、両方とも昨年度より下がっているものの、4人組、T.Tの形態での学習が有効であると考えられる。	・言語活動や学習課題の設定、学習形態の工夫などの授業改善を継続する。 ・道徳や学級活動、生徒会活動等での学びを生かして、主体的に学習しようとする態度を育てる。 ・中1ギャップの解消とよりよい学習習慣の確立のために、小中連携、保護者・地域との連携を更に、推進する。
	●ICT利活用教育の推進	・ICT利活用による生徒の学習意欲の向上	・全ての教員が、ICT機器を有効に使えるようにする。 ・授業におけるICTの利活用を通して、生徒の学習意欲を喚起し、ICTが役に立つという生徒・保護者の割合が70%以上になる。	・教員全員がICT機器を有効に活用できるよう、ICT利活用に関する研修を計画的に行う。 ・ICTの研修を通して、教師が電子黒板やデジタル教科書の活用をする能力の向上を図る。	B	・各クラスに電子黒板が設置されており、教師、生徒共に電子黒板を使った授業に自然に取り組んでいる。 ・校内研修の学び合いと一緒にICTを活用した授業について検討し、生徒の学習意欲の喚起や生徒の学習に役立つための推進が出来る。	・校内研修によるICT利活用を効果的に行った授業の情報交換や各種機器やソフトの使い方の研修を行う。

② 自他を尊重しながら、支え合い、社会の中で自立して生きていける生徒の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	・浜玉中三訓の徹底	・基本的な生活習慣の定着を図り、自ら行動を起こし、自らを律することができる生徒を育て、浜玉中三訓ができていようという生徒が70%以上になる。 ・「立腰教育」を取り入れ、何事にも強い意志を持って取り組む生徒、自ら主体的に活動する生徒の育成を図る。	・学級や学年、全校で「立腰教育」に取り組むことで、基本的な生活習慣を確立させる。 ・保護者との連携を積極的に図ることで、校内・校外の環境作りに取り組む。 ・全職員で浜玉中三訓の取り組みを共通理解し、1日を通して、生徒に対して指導を行う。 ・学校行事等を通して、自主的な行動を促す指導に重点を置く。	A	・各学年で立腰の取り組みを行い、特に今年度は生徒主体で声かけができるように促し、静かな雰囲気の中で授業を始められることが増えた。 ・浜玉中三訓については、特に時間について重点的に取り組み、授業開始や下校時刻を守って生活できる生徒が大幅に増えた。また、意識して生活できている生徒も75%にのぼった。 ・保護者との連携では、長期休みの見回りを中心に積極的に行うことができた。	・生徒会の役員だけでなく、生徒全員が自らあいさつができるような啓発を行っていく。 ・基本的な生活習慣として、服装身振りの意識の向上を図るために、定期的な全校での服装指導を行う。
	●心の教育	・自他を大切にしながら豊かな心を育てる仲間づくり	・教育相談を通して生徒理解に努める。 ・2回目の「QU」で学校生活への満足度をアップさせる。 ・各教科・道徳の時間を通して、一人一人の道徳的意欲を高め、道徳的実践意欲と態度の向上を図り、よりよい人間関係をつくるように努力する。	・教育相談を定期的に行い、職員間で情報交換を行いながら生徒の心の育成を図る。 ・「QU」を年2回実施し、SCを有効活用しながら、人間関係作りで役立つ学習の場を設定し、よりよい集団の成長を促すと共に、教育相談の充実による生徒理解に努める。 ・道徳の時間を中心に教育相談や「QU」の結果を活用して教材研究を行う。	A	・年度当初に1回目のQUテストを実施し、その結果をもとに、校内研修で生徒の実体と支援の方法を全職員で確認することが出来た。また、結果をもとに気になる子については、SCとの面談を勧めるなど生徒理解にもつなげることができた。 ・さらに、2回目のQUテストをもとに、1回目と比較し生徒の変容を、学年部会で共通理解し、支援方法を検討した。	・QUや教育相談の結果をいち早く学年部会などを開き教職員が共通理解すること、必要に応じてスムーズにSCや外部機関と連携するための細やかな支援体制を整えていく必要がある。
	○特別支援教育の充実	・個々の生徒に応じたきめ細かい対応	・特別支援教育の学級経営案を作成し、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、支援を要する多様な生徒への適切な支援、具体的な対応ができるように支援会議を定期的に行う。	・巡回相談、校内研修(特別支援教育)で、専門的見地から助言や指導を受け、全職員の生徒への支援教育への意識の向上を促し、具体的な方策を決定する。 ・特別支援教育コーディネーターや教育相談担当者、特別支援担当教員と連携して情報交換を密にし、生徒の実態を把握すると共に、生徒に応じた対応を組織的に行う。	B	・特別支援コーディネーター、養護教諭、教育相談担当教員と連携して、職員や関係機関との情報交換を定期的に行うことができた。 ・巡回相談や校内研修(特別支援教育)で、専門的見地から助言、指導を受けることができた。職員が共通理解して生徒に応じた対応をすることができた。 ・個別に支援を要する生徒が多く、精一杯対応しているが、職員の負担が大きい。	・様々な特性を持った生徒に、それぞれの職員が温かく接し、指導することができた。 ・職員間での情報交換や対応はできているが、組織として支援していく体制が、まだうまくとれていない。個別支援を要する生徒が増えている中、支援体制を確立していく必要がある。
	●いじめ問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくり	・いじめの発生件数(認知件数)を0にする。 ・いじめの早期発見・早期対応を行い、生徒が安心して学校生活を過ごすことが出来る。	・QUテスト(2回)、いじめに関するアンケート(年3回)を実施し状況把握に努める。 ・年2回、教育相談期間を設け生徒一人ひとりの声を聴く。 ・生徒理解を積極的に行い、各関係機関と連携を図る。	B	・QUテスト、いじめに関するアンケートを実施し、状況把握に努めた。 ・年2回、教育相談期間を設け生徒一人ひとりの声を聞くことができた。 ・いじめ認知が7件、どの問題も早期に多くの人数で取り組むことができる体制ができた。経過の観察、指導にも適切に報告をするようにし、確実に指導が入るようになった。	・保護者への連絡等を密に取ることで、円滑に問題を解決できるように、解決へのプロセスを明確にする。 ・どの学年、学級の生徒も様々な職員が関わることができるように、積極的な巡回を促す。

③ 地域への意識が高く、感謝の心を持ち、地域社会に貢献できる生徒の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○小・中・地域連携	・小・中学校と地域との連携の充実・発展と開かれた学校づくり	・授業参観の参加率を60%以上に上げる。 ・地域の人材を活かした、サークル活動や各種ボランティアを通して、小・中学校と地域の連携を通して、学校が地域の発展に役立っていると思う生徒・保護者が70%以上	・保護者との連絡を密にし、学年通信や地域への広報誌(浜玉つづき)等を通して啓発を図り、子どもへの理解・生活の改善を進める。 ・3つの小学校及び地域の講師と連携を密にし、各部会の運営を効果的に進行。 ・保護者との直接的コミュニケーションを図る。	A	・授業参観の参加率は60パーセントに到達しなかったが、地域の方々の協力により、19サークルの開設ができた。また、「地域の連携を通して、地域の発展に役立っている」と答えた保護者が95%、生徒が77%であり、目標値を大きく上回ることができた。 ・永年の各種ボランティア活動を通して、県教育長表彰を受けることが出来た。	・浜玉中学校区で発行している学校便りに、サークル活動の様子や生徒の感想を載せ、地域への情報発信を継続的に発行。 ・学校便りや学級通信を定期的に発行し、アンケートの結果から70%の保護者は学校での子供を把握していると考えられるので、HPも活用しながら70%の数値を上回るように努めていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育課題	●健康・体づくり	・運動習慣の改善と定着化 ・望ましい食習慣と自己管理能力の育成	・自己の健康体力の現状を把握し、体力の向上を図ると同時に、新体力テストで全国平均を上回る。 ・全校生徒の朝食摂取率を90%以上に上げる。また、給食の残食をなくす。	・個人ノートの活用、活動の場の工夫等により自ら進んで活動させ、体力向上を支援する。 ・生活アンケートを実施し、朝食摂取率を把握し、保護者へ向け情報提供し、意識高揚と改善を図る。 ・生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。	B	・毎時の準備運動も真剣に取り組む生徒が増えた。また、個人ノートを活用したことにより気づきや振り返りを覚悟からも向上している。 ・生活アンケートや体力テストアンケートを実施し、朝食への意識も高まり、朝食欠食の生徒がなくなった。 ・ほとんどの生徒が、朝食を取っており、日々の給食の残食もだいぶ減ってきた。	・生徒会体育部の活動と連携し、生徒一人一人が全体的に体力の向上に努めるよう指導する。 ・体力テストの結果を確認し、各個人のデータをもとに、バランスのとれた体力の向上を図る。 ・毎時の準備運動や各種目での補強運動を工夫し、生徒が自主的に活動できるように指導する。 ・成長期に必要な栄養等を理解させ、正しい食生活を定着させる。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・今年度も、生徒指導面において、職員の共通理解と学年の行動力が十分機能した。一人で抱え込まず、学年集団で何事にも計画・実践・反省を基盤として生活・学習の場面にのぞんだ。学年で空き時間の教師は、学年の廊下や気になる生徒によりそいながらコミュニケーションを大切にしたい。
・家庭、地域の理解と協力で、心配された大きな問題行動は激減し、上級生や生徒会を中心にある程度落ち着いた校内・外の生活であった。
・生徒指導を更に充実させ、解る授業の研究と授業を大切に生徒の育成を図り、学力の向上に努める。
・特別支援的な指導の面で、気になる女子生徒を、保護者、家庭と協力連携し、支援していく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目